

[illegible]

No.
25

発送 昭和19年5月8日

受取 昭和19年6月20日

「南十字星の輝きも南国の夜らしい、トツケイ（オオヤモリの別名）が時にその愛嬌のある声でトツケートツケーと鳴き続ける、虫の声も戦場らしい、内地の今頃は目には青葉山ほととぎす初鰹の五月の頃だらう、緬甸前線の五月の頃はマンゴーの盛りだ」

*南十字星：天の南極付近に見える星座。北半球でも赤道に近い緯度であれば、水平線近くに見えることができる

三月一日付封書受取了。祖母様と松崎皆元氣の由相おし生じ
相書寄(車輪)に接したる。君の新後の経路は良なり一々事
安んぜり内地も今や六月初旬鉄道線踏倒。早苗田も梅雨に濡
れ畑産の初獲を唱歌せす事なり。常陸地は大失便と大苦しみ雨
は毎朝降りて降る。暑きは御座らず。梅雨にぬくことあり。
ある。同封の梅少枝故郷の手紙も傳つてくれど感激に堪へず。
孝子より手紙も時々送らん。江戸の本松の如き村即ち高き山
万の際には雨霧に包まれて居ると汁水國界も前様の次役で城割りと
争ひして一度時季心腹を破張る居る事。前様の決戦の時將
兵を得た直ぐで居る。いかに細部國境に南する限り心配する事
も多快報を知らせ侍ると思ふ。此江口元気だ。同時に隣町陳氏
とも御仲りのよし。弟も膳所にも在り。あつたその名入ふる事なり。
ここの葉書は往復の電航空機によつて送達されます。
此の葉書は往復の電航空機によつて送達されます。

なごろ、小笠原の川、故郷、梅、小枝、卯月中、出なご病室、灯来、てり

No.
26

発送
昭和19年6月6日

受取 昭和19年7月13日

「内地は今や六月初旬、鉄道線路側の早苗田も梅雨に濡れ増産の初夏を旺歌せすだらう」

「同封の梅の小枝故郷の香りを伝えてくれて感激に堪えず」

「当緬印国境に関する限り心配するな」

＊鉄道線路：昭和3年に国有鉄道久大線の久留米～筑後吉井間が開業

*梅の小枝：梅子さんが肇さんあての手紙に同封して送った。これ以前、肇さんは

(No. 12、7月展示)、「宿舎の前の門松にも梅の代りに桜を差してある」(No. 13、8月展示)と書き送っていた

其の故元氣が皆な様にも多くなりぬとて、事と思ふべし。其
を極元氣せしめ、故に内地を梅雨の期に事なり
つめく、とて居るにあらう。是方には雨多き事なり。其
は雨内あり、故に多し。樹の下に雲の飛ぶ交ふ管の
光も物音りたるやうな、仰に野趣満ちたるなり。
雨の事あり、とて六月、今あつた。とて事あり。とて
其の故元氣が皆な様にも多くなりぬとて、事と思ふべし。其
を極元氣せしめ、故に内地を梅雨の期に事なり
つめく、とて居るにあらう。是方には雨多き事なり。其
は雨内あり、故に多し。樹の下に雲の飛ぶ交ふ管の
光も物音りたるやうな、仰に野趣満ちたるなり。
雨の事あり、とて六月、今あつた。とて事あり。とて

3月22日 送つた附小書多き事あり。とて

四世事々公附其少者昨日指手せう家々皆えゐるや
 安ふ。一はく来候おきためは紙合心解て所た。しきまき通
 之氣過し居る故安心せられし。所た。北九の空能取指な龍林
 郭郭海サハル島上は以東御前の道傍の丸に梅とて御伯
 の御意に所衛に如矢々都と思ひ。其方回河津汁南都道り如
 雨は多んの毎日の如く降る所。あゝその散にすんく其の聲に
 分りし情趣のた。命も一夜散るといふ人。世觀に覺るといふ
 事と知つゝ不替分命。こは終端に於るみ中。臨せらるる心
 境と處山。中野原に。松林の村の宮中。牧の雨の御意
 うちいれとか。御意や。是より。し。中。や。く。水。の。君。知
 して。人。の。皆。え。ゐ。た。仰。り。と。も。う。つ。と。と。人。の。心。を。云。つ。所。た
 御意。御。田。植。の。或。り。と。眠。に。は。せ。つ。つ。車。の。は。時。と。思。く
 州。の。新。蔭。に。飛。山。白。路。由。の。あ。き。れ。

＊サイパン島上陸：昭和19年6月15日、サイパン島上陸開始

七月十日、時、敵機、便、通信受、即ち、相、敵、機、の、飛、行、一、目、撃、
 ち、つ、て、居、る、由、を、告、げ、し、た、り、し、た、り、し、た、り、し、た、り、し、た、り、
 服、の、下、の、衣、物、を、脱、ぎ、し、て、内、服、を、着、た、り、し、た、り、し、た、り、
 宣、言、し、た、り、し、た、り、し、た、り、し、た、り、し、た、り、し、た、り、
 此、の、葉、書、は、往、復、と、も、航、空、機、に、よ、つ、て、送、達、さ、れ、ま、す、と、い、ふ、
 此、の、葉、書、は、往、復、と、も、航、空、機、に、よ、つ、て、送、達、さ、れ、ま、す、と、い、ふ、

No. 29

発送 昭和19年8月16日

受取 昭和20年1月24日

「新聞の報ずるところに依ると、去る八月十一日三度敵機は北九州地区に來襲せし由、大宮、テニアン島の皇軍新兵の死闘を想ふ時我々ビルマに居る將兵の意氣衝天、安心せよ」

* 8月11日北九州空襲：昭和19年8月11日、八幡製鉄所を目標に焼夷弾による

爆撃が行われた

* 大宮：大宮島はグアム島の日本統治時代の名称。昭和19年8月11日総員戦死

* テニアン島：マリアナ諸島の一つで、サイパン島から約8キロメートルの距離にあ

る。昭和19年8月3日総員戦死

軍、の、後、方、を、守、る、の、為、に、
 少、兵、も、も、精、力、を、尽、す、
 軍、務、に、精、進、す、
 内、地、の、其、の、後、の、物、資、を、
 新、用、に、使、う、に、努、め、を、
 此、の、葉、書、は、往、復、と、も、航、空、機、に、よ、つ、て、送、達、さ、れ、ま、す、と、い、ふ、

No. 30

発送 昭和19年8月19日

受取 日付不明

「耳納の翠緑筑水の流れは悠久数千年の歴史を秘めて重大時局に直面せる筑紫人に種々の教訓を与へてゐることと想像して居る」

「数年間いたげられたる民族が東亜の盟主日本と協力してゐる姿は実に涙ぐましきものあり」

「我々前線の者達の話はいつも食物の事ばかり。刺身、天プラ、等々」

* 話はいつも食物の事ばかり：昭和18年以降、ビルマでは空爆が増え、市街地や畑が破壊され、食糧や物資の補給が難しくなった



十月廿五日、時州使の言を蒙りては元氣で過せしむる事は心ぞ
十室も大氣通してこそ故守にせよ。十一月も早也初めに近き由哉
ひは金々事務の久に入る未だ事たう。九月も秋風の空彼方より
常々我れ境の氣分がえらう（因成も市井張頭宮には違ふことと思つ）
居る。ワルマは今も食料難なりと言ふ今、甜菜に際みなりお馳展なすた
畢物やかくババウのある故に、氣候は田中なとてもの事なり直事にゐると華非
常に在へて考へ南有とも此の雲を晴期あり女あるとも
初てわ生ふる十月十五日附少射に任官せし事は教範規定の事哉なり
屈あてし、租税も相手がゆえきの由老りの夜氣の新作は一意者
佐藤なり、影響も據りもそのふゆしくゆほに立つ月も近し西朝柳の
ゆ長ぬか、直望居りたまふのみ、もう一まつと云ふ水降の勝負も便りあり
相手がするまゝなる由其うち肉金の様もありん、又之局連絡のまじり口に
こけに御申ならんと聞あり、本宿寺のふと道房も同じ、そなたも主人連絡
こけ、今も石居義隆の坊屋に下りたり、酒さ事なりん、萬年氏名にも建格
— 四角ありん、九迄の畑校にまたち小の山同井まを共にするといふやて
此の葉書は往復とも航空機によつて送達されます十月三十日
より、芝川橋下流の大りにえ可くせよ。よろしく傳へてはかへります。

其の後祖曲禮を始の一曰啓んま
りて、之等事だらふ。小を盡
みええ氣、冬もす格好にやう
くある。田舎にしゃつと収め
て、海へともる市に朝ふ。
もとよりそゝろつららゝ理合
のする波山何のものと思張
るは、此の人の事をあや
うきなふ計人と承ふ。此弟を
此方二月も改はえられたる
の守をてお給さう。あ
らうと云ふこともあふんとす
る人者、信じて臨祖法成に
しあり。傳へざるればなり。



「当方の貯金通帳番号：何かに記入し置かれ度し」

受取
昭和20年6月2日

「今や最後の勝利へと頑張る際皆の健康を祈るや切なり、又便りす」

＊現存する梅子さん宛ての軍事郵便のうち最後のもの